

「地域プロデューサー小商」の活動を通じた 企画力・実践力の育成

～文部科学省「目指せスペシャリスト」事業を終えて～

石川県立小松商業高等学校教頭 池田 英仁

はじめに

平成19年度から平成21年度の3年間、文部科学省「目指せスペシャリスト」事業の研究指定を受け、本年3月に研究を完了した。この研究では主題を「企画力・実践力溢れるビジネススペシャリストの育成を目指して」とした。

タイトルにある「地域プロデューサー小商」とは、商店街での学校デパートを運営する模擬株式会社「小商」と、ご当地検定の「ふるさと小松検定」の実施や地域振興を目的としたNPO法人「ふるさと小松検定」の活動を柱とした取組である。この取組内容について報告したい。

1. 研究開発テーマ及びねらいについて

(1) 研究開発テーマ

－企画力・実践力溢れるビジネススペシャリストの育成を目指して－ふるさと小松検定の実施を通して身につけた地域理解をもとに、地域活性化に取り組む小松商業版ビジネスモデル「地域プロデューサー小商」の取組

(2) ねらい

以前より取り組んできた高度な資格取得に加えて、ふるさと小松の情報を国内外に発信する地域の拠点づくりと、深い地域理解に基づく、地域活性化の提案拠点としての機能を充実する。

具体的には、小松商業版ビジネスモデルとして以下の8つの視点で、「情報の商品化」を図った。

①ふるさと教育の推進

ふるさとを知り、ふるさとから学ぶ学習活動

②起業家精神の育成

NPO法人や株式会社の実践的な在り方を研究するとともに、地域の経済界・産業界と連携した商品開発の実施

③異校種間、異世代間の交流

ふるさと情報の発信・普及、イベントでの交流

④情報教育の充実

情報を収集する力、情報を取捨選択する力の育成

⑤国際教育の推進

海外交流と英語によるふるさと情報の発信

⑥授業の充実と基礎学力の定着

地域の経済界や産業界との連携をもとに、自らの将来を見すえた緊張感ある学習

⑦コミュニケーション能力の向上

「聞く・話す」体験活動の促進、英語力の強化

⑧家庭・地域との連携

家庭や地域とのつながりを取り戻す活動

以上の取組から、進取の気性を体得した生徒が、夢や希望を抱き、観光ビジネスをはじめ実際のビジネス経験や商品取引を通して、これまで以上に高度な資格取得や全国や海外との交流を志す、チャレンジ精神旺盛な人材となる商業教育を目指した。

2. 事業の概要について

(1) 「ふるさと小松検定」の実施

①「ふるさと小松検定」

a 検定準拠テキスト『ふるさと小松』(日本語版・英語版)、『ふるさと小松検定ドリル』、『ふるさと小松検定かるた』の作成と出版

b 一般受験者を対象とした「ふるさと小松検定セミナー」や小・中・高校生を対象とした「ふるさと講座」(出前授業)の実施

c 「ふるさと小松検定」探訪ツアーの企画・実施

d 地域の観光地における「ふるさとガイド」体験

e 検定の実施(問題作成、会場準備、運営等)

f 県外の高校と連携したふるさと紹介や海外における「ふるさと小松検定セミナー」の開催

②「ふるさと小松検定」のNPO法人化

生徒手づくりの「ふるさと小松検定」に平成17年度より取り組み、初級編、中級編を作成し実施。平成19年度は、上級編にも取り組み、継続・発展を目指す。対象が地域全域に及び、学校全体の

取組となっているため、地域と連携し、今後より一層の発展を図ることを目指してNPO法人化して、生徒が主体となって運営してきた。

(2) 模擬株式会社「小商」の設立・運営

① 模擬株式会社「小商」

「ふるさと小松検定」を通して身につけたふるさと理解を活用し、経済界や産業界、地域住民と協力しながら、地域の活性化に取り組む。地域の特色を活かした商品開発やイベントの企画・運営に併せ、株主総会を実施することで、起業家精神の育成をはかる。

② 「小商フェスティバル」

地域の人達との交流を通して社会性を身につけ、社会の一員としての自覚を身につける目的で、文化祭を校外（小松市の駅前中心商店街）に移した取り組みで、6回目となる。

小松市中心商店街のイベント「匠の市」に小松市祭と併催する形で実施。

来場者は多く、人出の少ない地元商店街の活性化に役立つ。産業界や経済界、地域住民との協力により、オリジナル商品の開発や販売に取り組む。



【小商フェスティバルのオープニング風景】

③ 「小商フェスティバル」のマネジメント

a 学習の場を校外に移し、地域の企業、商店街、学校等へ参加と協力を呼びかけ、市役所と共にイベントの企画・運営の実施

b 知識技術の還元と学習内容のPRを兼ね、生徒を講師とする「ふるさと小松検定セミナー」の開講

c ふるさとをモチーフとしたオリジナル商品を開発し、フェスティバルにおける店頭販売

3. 主な事業の成果と課題について

(1) 成果

① ふるさと教育の推進

ふるさと小松検定の運営・実施、普及の中で、十

分に出ている。生徒のアンケート調査ではふるさと小松の理解が深まったという生徒が60% 地域貢献の意識が強まったという生徒が68%

② 異校種間・異世代間の交流

校種：保育園・幼稚園・小学校、老人ホーム

取組：かるた取り、地域の人たちへのIT講座など

生徒の姿：地域での評価と生徒たちの自信や地域への貢献の意欲の向上



【老人ホームでの紙芝居】

③ 情報教育の充実

研究発表会における、パワーポイントでの発表、マーケティングによるデータ処理、韓国の学校とのeメールでのやりとりなど

授業で学ぶという受け身の学習から、自分たちが考えて教える（IT講座）ことで得た成果

④ 授業の充実と基礎学力の定着

基礎学力の定着は、本校の教育目標であり、資格取得の学習面で重要な観点

授業が分かる、興味関心をもてたと答えた生徒が70%以上

授業や資格取得等の補習における満足度が85%

授業改善の取組：近隣の中学校との、中高連携授業研究と年に2回の授業公開週間を設定

⑤ コミュニケーション能力の向上

研究成果発表会における3年生の成果発表

受付や案内係、駐車整理係など、多くの係を担当し、参加者より高い評価

ふるさと小松検定や小商フェスティバルなどの活動によるコミュニケーション能力の定着

⑥ 家庭・地域との連携（地域活性化）

商店街に人を呼び込み、提携店の商品を販売するイベントにより、商店街・地域の活性化促進への貢献

オリジナル商品の販売により、「安宅の関」をは

じめとする小松の文化の発信に貢献
「地産地消」をテーマにした開発商品の販売により、地元の素材を購買者へ再認識
「模擬株式会社」の取組は、ビジネス教育の効果と同時に、郷土愛の向上にも貢献

(2) 課題

評価の観点である「起業家精神の育成」についての生徒の意識の低さ

- ①オリジナル商品の販売方法や商品開発で、自分達でゼロから考え、開発・販売していくことにより企画力の向上とビジネスの起業家精神を育成
- ②模擬株式会社の設立・運営で、設立方法から株主総会までの流れを理解し、株式会社に興味を抱いた生徒の出現
- ③自分で会社を経営したいかという問いには、37%の生徒が肯定的な回答をしているが、この数値は必ずしも高いとはいえず、本来の起業家精神の醸成が不十分

4. 事業全体の成果と課題

①生徒の意識調査

卒業生の意識調査の結果によると、有意義であったと答えた生徒は全体的には77.3%で、この事業は生徒にとっても有効であった。

また、生徒の満足度調査によれば、「あなたは、第1希望の進路に進むことができましたか」の問いに、「第1希望の進路に進むことができました」と「第1希望ではないがそれに近い進路に進むことができました」と回答した生徒は、実に92.6%であった。

これは、就職状況が好調であった昨年の88.8%より多い結果となっている。

②生徒の進路状況

平成20年の「百年に一度」と言われる大きな景気後退にあって、産業機械メーカーを産業の基盤としている加賀地区での21年度の就職状況は大変厳しいものとなったが、本校の就職内定率は100%となり、進学においても、金沢大学、富山大学、同志社大学、関西大学の合格をはじめとして、進学決定率も100%となった。

5. まとめ（実践力・企画力の視点から）

表題の実践力・企画力の観点から報告したい。

この3年間の取組で、生徒は確実に多くの力を身につけてきた。いくつかの例を挙げてみる。

①商品開発の企画力と提携先を見つけるため、企業へ電話をかけるという実践力がついた。

②NPO法人主催のIT講座では、講習内容を自分たちで考えて、講義内容の原稿を作る。

この講座では、教員の力を借りずにやり遂げた。

③保育園・幼稚園・老人ホームでのセミナーやかるた取り、イベントでの〇×クイズの運営など、すべて生徒が中心に運営した。

④平成21年12月の研究発表会では、生徒が主体の発表会を目指し、駐車場の整理、受付、会場の案内、誘導、発表及び司会など、大半を生徒が中心となって行い、参加者から高い評価をいただいた。



【発表会での案内の様子】

年度が替わった今年度も、NPO法人と模擬株式会社との取組は継続しており、折しも本校の所在地である小松市が市制70周年を迎え、イベントへの協力を継続して行っている。NPO法人担当や生徒会役員が中心に取り組んでいるが、市民と接する場面が多いものの、物怖じすることなく、また、楽しみながらこなしている。

また、この研究で開発したオリジナル商品もおかげさまで定着して、駅構内のコンビニや小松空港売店などで販売されており、県外の商業高校からも、学校デパート用にと注文もいただいている。今後もこれらの取組が生徒の実践力・企画力の伸長につながるように教職員一体となって見守っていきたい。



【本校のオリジナル商品】

